脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.68

マアト・フォー・ピース**（Maat for Peace）**

（訳注　正式には，Maat association for Peace, Development and Human Rights．エジプトの平和、開発、人権のためのNGOである．Ma'at（マアト）とは、「法」「真理」「正義」を司る古代エジプトの女神あるいは概念である。）

**「緊急事態を含む脱施設化に関するガイドライン案」に関する**

**マアト・フォー・ピースの提出文書**

要約

COVID-19の大流行とそれを封じ込めるために各国が採用した措置により、中東の多くの障害のある人が収入源や社会保護給付を失う危険にさらされ、同時に社会福祉施設に強制収容されたり、家族から強制的に隔離・分離される可能性が高まりました。COVID-19パンデミックの発生に関連する動きには、すべての障害のある人が影響を受けていますが、こうした動きは、施設に収容されている障害のある人、知的障害者、精神障害者（psychosocial disabilities）、子ども、女性、高齢の障害のある人など、制度的・構造的差別を受けている人に特に影響を与えました。さらに、中東諸国における人道的緊急事態や武力紛争の中で生活する障害のある人は、通常、政府や外部ドナーによる人道的サービスや支援が提供されないまま過酷な状況に置かれており、政府は武力紛争に直接関与しその深刻さが増すにつれ、これらのサービスの提供を直ちに停止せざるを得ない状況にあるとマアトは指摘しました。また、障害のある人は、外部の関係者が提供する人道支援に、障害のない人のようにアクセスすることは極めて困難です。

これまで策定が進んできた改善策は、国際社会に対して、障害のある人が自立的に生活し、社会に統合され、完全に自由に自分の人生を選ぶことを保護するより良い方法を示す、規制枠組みや一連の一般的指針を見出すことを促しています。これは現在、障害者権利委員会が、緊急事態を含む障害のある人の脱施設化を目的とした一連のガイドラインを開発することによって、達成しようとしていることです。私たちはこの取り組みに対して意見を述べます。

障害者権利委員会の呼びかけに基づき、すべての関係者がガイドライン案の項目についてコメントするよう求められていますが、「平和、開発、人権のためのマアト」（Maat for Peace, Development and Human Rights）(以下、マアト)は、脱施設化義務に関するパラグラフ8と12、脱施設化のプロセスの主要要素の理解と実行に関するパラグラフ14、資金及び資源の配分に関するパラグラフ27と28、障害児に関するパラグラフ43、および救済、補償及び賠償に関するパラグラフ117など、議論の対象となっているいくつかのパラグラフについて、以下に詳しく述べます。

**施設収容廃止の義務： パラグラフ8、12**

マアトは、障害のある人の施設ケアを終わらせることは、その人の最善の利益のために緊急に必要だと考えます。施設収容は、障害のある人に対する差別的行為の一種と考えられ、その法的能力を実際に否定することになるからです。またそれは、恣意的拘束と自由剥奪の一形態であり、障害者権利条約第19条および自立生活と社会統合に関する2017年の一般的意見第5号によって保証されている障害のある人の自立生活と社会に統合される権利に直接反しています。

しかし、Maatは、すべての障害のある人について施設ケアを完全に廃止すべきではないと考えています。Maatは、施設ケアは大多数の障害のある人にとって有害な差別的行為であると考える一方で、施設ケアは、特に家族から排斥された人、自分の逃げ場や住居を持っていない人、自分や他人を危険にさらす知的障害のある人、中東の多くの精神・知的障害者のように路上や広場、公共の場でホームレス生活を送る人にとって保護の形になり得ると考えています。

したがって、マアトは、障害者施設介護の廃止に関するガイドライン案のパラグラフ8および12を、障害者施設介護を完全に廃止するのではなく、精神的・社会的条件から、喪失やホームレスの生活ではなく、施設入所の義務がある限られた障害のある人が、最低限利用できるようにする形で修正することを提言します。マアトは、特別な状況に応じて限られた人数の障害のある人に施設でのケアを推奨していますが、その限られた人数と特定の状況において施設でのケアを認める例外を拡大することによって、障害のある人の施設ケアの終了を求める一般規則の抜け道としたり、極端に狭めたりしてはならないことを指摘します。

**脱施設化プロセスの重要な要素を理解し、実施すること： パラグラフ14**

草案のパラグラフ14は、障害のある人のために廃止されるべき施設ケアには、監視、ケア、治療または予防的拘留の目的で個人が留め置かれる精神科施設および精神保健の場を含む、あらゆる形態の施設への入所および拘留が含まれると規定しています。マアトは、障害のある人のために終了または廃止されるべき施設ケアの形態から、精神科施設と精神保健施設が除外されるように、このパラグラフを修正するべきだと考えています。精神科施設や精神保健施設は、精神的・精神科的な障害のある障害のある人、特に自分自身や周囲の人に危険を及ぼす人のケアに最も適した場所となりうることが、実際の経験から示されています。したがって、私生活や公的生活を危険にさらすような深刻な精神・心理的障害のある人を精神科病院に収容することは、本人や周囲の者を保護するための最も適切な予防措置となり得ます。

この点でマアトの見解を支持する具体的な事実として、2020年2月にジンバブエのズビシャバネで知的障害のある男性が妻の頭を木の枝で叩き、体をストーブで燃やして殺害しています[[1]](#footnote-1)。また、ある精神障害者は、2021年6月、アルジェリアのシディ・ジラリの自治体で精神科医として働く妹を殺害しました。それは妹が、彼の落ち着きを取り戻し、正常な状態に戻そうとした後に起きたことです[[2]](#footnote-2)。2022年5月、エジプト・アラブ共和国のダカリア県で、心理的障害のある母親が3人の子どもの首をはね、その後自殺を図りました[[3]](#footnote-3)。

**資金および資源の配分： パラグラフ27および28**

パラグラフ27および28では、施設の建設・改修に公的資金を使用せず、障害者代替ケア施設への投資・改修を禁止し、緊急措置として障害者施設ケアを廃止するためにあらゆる種類の投資を指示すべきと規定しています。マアトは、障害者施設ケアを廃止し、障害のある人が自立して生活し社会に統合できるよう必要かつ適切なあらゆる形態の支援を提供することを目的としたこれら2つのパラグラフの一般的な考え方を支持します。しかし、マアトは、施設ケアの制度から離れるか残るかを選ぶ機会を障害のある人に与える必要があると考えます。それは、選択の機会や意思を試す機会を与えずに、障害のある人は代替ケア施設に留まることを望まないと事前に想定することは、条約第12条で認められている障害のある人の法的能力の否定を意味するからです。

したがって、マアトは、障害のある人に施設に留まるか退所するかを選択する機会を与えることが必要であり、その機会は、代替ケア施設の最低数を維持、改修、投資することなしには提供できないことを提言します。そこで、マアトは、障害のある人の選択の自由を確保するために、最低レベルの施設の改修や投資の可能性を保証する形で、これら2つのパラグラフを修正することを提案します。マアトは、障害のある人の選択の自由を尊重するために、その最低限度内での代替ケア施設の投資と改修を許可することを提案しますが、それは同時に、（障害のある人の選択の自由や法的能力を認める結果として、施設の改修または投資の可能性を認める例外を拡張することによって）、障害のある人の施設ケアの形態を最大限終了または縮小しなければならないというマアトが支持する一般規則の抜け道をつくるべきではないことを示しています。

**障害のある子ども： パラグラフ43**

草案のパラグラフ43では、締約国はすべての障害児の家庭生活の権利を保証すべきであり、障害児に提供される孤児院や入所施設などのあらゆる形態の支援を停止し、他の形態の家庭生活と置き換える必要性が規定されています。マアトは、障害のある子どもにあらゆる形態の家族生活の権利を保証するとした、このパラグラフに含まれる一般的な考えを支持しますが、同時に、障害のある子どもが家族生活の形態を得ることは非常に困難であることを指摘します。特に、両親を亡くしたり家族から排斥されたりした場合、この特別な事情により、両親や家族によって提供されるケアや家庭に代わるものの獲得は非常に困難です。そのため、児童養護施設を含む代替施設は、障害のある子どもたちをホームレスや死亡から守るための最も適切な措置となります。したがって、マアトは、家族的生活形態を得ることができない障害のある子どものために、孤児院やその他の代替ケア施設に最低限の支援を提供することを保証する形で、このパラグラフの改正を提言します。

**救済、補償及び賠償： パラグラフ117**

草案のパラグラフ117は、締約国は、施設収容を生き延びた障害のある人に公式な謝罪と即時補償を提供するメカニズムを確立すべきであると述べています。マアトはこのパラグラフの一般的な考え方を支持しますが、同時に、施設から退去した障害のある人を生還者とみなし、公式な謝罪と即時補償を提供することを国家に強制することは、私たちが意見を出しているこのガイドライン案を国が採用するのに大きな障壁となり得ると考えます。なぜなら、国は常に、金銭補償や一定の謝罪を提供するという国際的な義務を伴う法的または道徳的な義務を回避しようとしていることが、実際の経験から分かっています。したがって、マアトは、できるだけ多くの国が、緊急事態を含む障害のある人の施設ケアの廃止に関するガイドラインを採択することを奨励するために、このパラグラフを修正することを提言します。

（翻訳：佐藤久夫、岡本 明）

1. معاق ذهني يهشم رأس زوجته ويحرق جثتها في جريمة مروعة، صدى البلد، 25 فبراير 2020، الرابط: <https://bit.ly/3mPblnj> [↑](#footnote-ref-1)
2. مختل عقليا يقتل شقيقته الأخصائية النفسية.. وتحدث الصدمة، دنيا الوطن، 13 يونيو 2021، الرابط: <https://bit.ly/3HmGUym> [↑](#footnote-ref-2)
3. خبير نفسي: سيدة الدقهلية التي قتلت أولادها تعاني من الاكتئاب الوجداني، أخبار اليوم، 31 مايو 2022، الرابط: <https://bit.ly/3HmIGQ2> [↑](#footnote-ref-3)